

三富地域ネットワーク

さんどめねっと

だより第88号

令和3年 2月15日発行
<https://www.santome.jp>
三富地域農業振興協議会



三富平地林で清々しい空気を
吸ってみませんか！

令和2年度の活動結果報告等について

令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、「平地林散策と野菜収穫体験ツアー」、「農と里山シンポジウム」、「千人くず掃き」等、多くのイベントを中止せざるを得ない年となりました。

そのような中、援農ボランティアにつきましては、例年より多くの方の応募があり、新たに25名の援農ボランティアが誕生しました。受入農家と共にコロナ対策を徹底し、活動していただいています。

川越高等技術専門学校の木工科の生徒を対象に、木が伐採されるところを見てもらう「ヤマの見学会」も行いました。これから木に携わっていく者として、貴重な体験ができたと思います。

また、木工家等による「さんどめの木をいかす会」では、例年開催する「さんどめの木をいかす展」の他「グリーンウッドワークで作るヒノキの箸作り」「クリの木で作るマイスプーン！」を、コロナ感染拡大対策ができるよう事前申し込み制で少人数のワークショップ（木工体験）行うことで開催につなげ、三富の木にふれあっていただきました。自分で作った箸やスプーン、椅子など使っていただき、平地林を身近に感じていただければと思います。

来年度もコロナの感染状況でイベント実施ができるどうか不明な点もありますが、三富地域の農業の振興と平地林の保全・活用となるイベントを企画してまいりたいと思いますので、皆様のご参加をお待ちしています。

また、こんなことしたい！自分はこんなことできる！会員様の企画を事務局にお伝えください！

なお、今年度も残り少なくなりましたが、新しく所沢に誕生した角川武蔵野ミュージアムとコラボした植菌体験や、竹中工務店に協力した企画展が開催されていますのでお知らせいたします。詳細は同封のチラシ、またはホームページをご覧ください

「メール」での情報提供を進めています。アドレスを事務局に登録お願いします。



川越高等技術専門校木工科
生徒と行ったヤマの見学会（
伐採見学）

撮影R2.8



問い合わせ先：川越農林振興センター管理部・三富農業・地域支援担当
〒350-1124川越市新宿町1-17-17
TEL:049-242-1808 FAX:049-243-7233
e-mail:r4218103@pref.saitama.lg.jp



平地林のナラ枯れについて

令和元年9月5日、新座市において県内で初めて「カシノナガキクイムシ」によるコナラへの被害が確認されました。令和2年現在では、三富地域である川越市、狭山市、所沢市、三芳町のほか、新座市、さいたま市、志木市、川口市、入間市、飯能市、上尾市で「カシノナガキクイムシ」によるナラ枯れが確認されており、被害地が拡大しています。

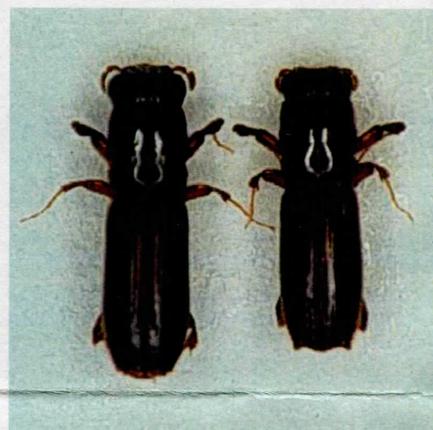
カシノナガキクイムシは、全長5mm程の昆虫で、主にコナラやミズナラ、カシ類に穿孔し、樹木の枯死を引き起こします。

カシノナガキクイムシが木に穿入するとき、体に付着したナラ菌(カビの一種)が木に感染、繁殖することで、導管が詰まり、水を吸い上げる機能を阻害するため枯死に至らしめます。

カシノナガキクイムシは、もともと日本にいる在来種ですが、全国的に1980年末あたりから被害が拡大しました。

かつて平地林は定期的に伐採され、炭や薪として使われてきましたが、燃料革命(石油等の化石燃料利用)により、伐採されなくなりました。

伐採されず、高齢化・大径木化した平地林のコナラやクヌギはカシノナガキクイムシにとって繁殖しやすい状況となり、被害が拡大しているといわれています。

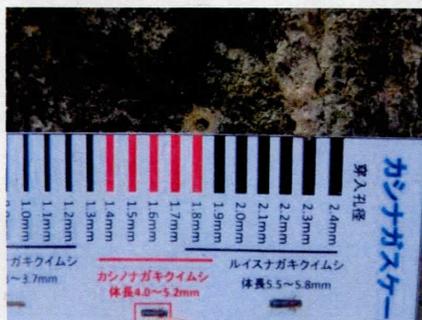


カシノナガキクイムシ
メス成虫とオス成虫

写真:(独)森林総合研究所関西支所

前年度に、産卵されたカシノナガキクイムシは木の中で成虫となり、6月～10月頃にかけて穴から飛翔し、健全な木に飛来、穿孔します。

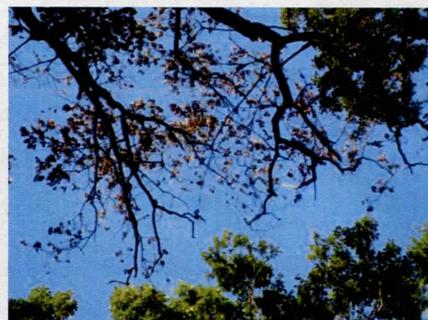
穿孔された木には幹に直径1.4～1.8ミリ程度の穴が開き(写真①)、樹木の根元にフラス(木くず)がたまりやすくなります。(写真②)7月下旬頃から9月上旬にかけて葉が紅葉のように赤茶色に変色(写真③)します。



写真①



写真②



写真③

※穿孔された木のすべてが枯れるわけではありません。

被害を食い止めるには、穿孔、産卵され木を、冬の間には伐倒し、カシノナガキクイムシが外に出ないように、チップ化、薬剤による燻蒸等で殺虫するほか、被害にあう前の木にビニールなどを巻き付け、カシノナガキクイムシの穿孔を防ぐ、トラップなどでカシノナガキクイムシを捕殺するなどがあります。また、被害にあった木を地域から持ち出さないことも必要です。

しかし、平地林のコナラなどを高齢化・大径木化する前に、炭や薪、キノコのほだ木、家具などの板材等の資源として利用し、従来のおおりの、約20年毎に伐採と再生を繰り返す、定期的に老齢木を伐採し若々しい森を維持する管理が必要と思われます。

さんとめねっと(三富地域農業振興協議会)でも、ナラ枯れは、三富地域の農業、平地林に大きな影響を与えるため、埼玉県、区域の市町等と協力し、被害の防止、防除及び、平地林の再生について皆様と共に考えていきたいと思ひます。



若返りを図るため伐採(H29.3)
更新した平地林の現況
(撮影R2.10)